慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	予科教授下田博君を悼む
Sub Title	
Author	伊東, 彌之助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1943
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.37, No.11 (1943. 11) ,p.1056(64)- 1060(68)
JaLC DOI	10.14991/001.19431101-0064
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19431101-0064

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

豫科教授下田博君を悼む

伊東彌之助

去る十月十九日の夜十時、神奈川縣松田附近の小田原急行電鐵の踏切りで、自動車の側面へ電車が衝突し、その慘事によつて下田博君は急逝されてしまつた。自分は下田君と卒業年度が同じであり、野村兼太郎教授の主宰する經濟史學會の初めからの委員でもあり、又三十前の血氣の頃は圖書館で椅子を列べた關係から、性格はまるで違つた積極と消極の對照をなしてゐ乍ら、妙にうまの合つた交際をしつゞける事が出來た。今、本誌に追悼の文を書き得る機會をあたへられた事は盡きぬ因緣であるが、下田君は後述の樣に圖書館の地味な仕事に滿足する事なく、豫科教授になり、更には政治部面にも驥足を延すと云ふ旺勢なる生活力を持つて居たに反し、自分は圖書館員として滿足した狹い見聞しか持ち合せてゐない。從つて下田君の全業績の回顧は他の人に讓つて、自分との關聯の下に下田君の學問的業績及び其の人となりを回顧し、哀悼の意を表したいと思ふ。

下田君は明治四十年神奈川縣國府津町に生れ、小田原中學を經て慶應義塾に入學、昭和六年經濟學部を卒業した。自分と同期であり乍ら、學生時代の同君とは全く交渉がなかつた。唯一度、高橋誠一郎教授の研究會を伺げなく覗見した時、目の大きな顏色のあまり良くない學生が演壇にゐたが、その學生が後から考へると下田君であつた。報告は低聲で、然も聞きとれぬ程の早さで行はれてゐたので、傍聽の興味を失つた事を記憶してゐる。この時の研究はフイジオクラアトの學說の出所を當時の哲學思想との關係から見る說及び瀧本博士の支那起源說を排して、マーカンチリズムの勇敢なる批判者ボアギュベールにその先驅を認めると云ふにあつて、それは後年「ボアギュルベールの富の本質論」（三田學會雜誌昭和七年七月）なる論文となつて發表された。卒業後は大學院に在籍され研究を繼續したが、學說史研究は單に學者間の個人的事情の穿鑿やその學者の思想と先人の思想との類似を求めて聯絡するのみでは眞の理解には達し得ずとなし、その時代的背景、特に社會經濟史的諸關係を鮮明に把握してこそ初めて明かになし得るとて、經濟史を講ずる野村教授の指導をも仰ぐ事になり、此處に自分との關係が生じた。間もなく野村教授の下に經濟史學會が設立され、創立以來委員を續けた事は既述の如くである。フイジオクラートの學說を佛蘭西資本主義成立過程の內に說明し、そして亦その學說が佛蘭西資本主義にどう反作用を及ぼしたか。經濟史の面から、學說史の面から多彩な筆致で畫き出さうとした一聯の論文がかくして次々に發表され、我國では寥々たる佛蘭西經濟史研究者の中に特異な存在を築き上げて行つた。

「フイジオクラアト以前の重農思想」（三田學會雜誌　昭和八年四月）
「新マーカンチリズム」（前同　八年十月）
「フイジオクラアト直前の重農主義運動」（前同　十一年一月）
「路易十四世治下の財政狀態」（前同　十三年七月）
「エードに就いて」（前同　十八年四月）

昭和七年に圖書館に勤務され、續いて十年に豫科教授及び大學講師となつて「經濟原論」及び「佛語經濟學」の教鞭

を執る樣になつたが、その間經濟史學會の共同研究「明治初期經濟史研究」に參加されて貿易部面を受持たれた。殊らくあまり氣の乘らない仕事であつたらうが、良く努められて「維新前後外國貿易論」(慶應義塾經濟史學會紀要　第一冊第二部)なる論文となつて現はれ、畑違ひ乍らも、學界に一つの衝動をあたへた事は偉とせねばならない。即ち「パスク・スミス著「德川時代の日本及び臺灣に於ける西我」に揭げられた貿易額を中心に、諸書のアレンジによつて作成した新な幕末の貿易表は、これ迄の諸說とは反對に、安政より慶應末年に至る貿易は連年の輸出超過を物語り、然して當時の貿易は幕府の獨占する處であつたから、貿易によつて得たる幕府の利益は巨大なるものがあり、從來の貿易を以て幕府を利せずと見るの說、若くは幕府財政窮乏の因を貿易に求むるの說は一顧の價値なしと論斷した。

下田君の研究は之れにとゞまらない。慶應出版社で「現代經濟新書」の發刊を企てるや、「南洋經濟論」を受持つて昭和十六年二月之れを世に送つた。近々百六十頁の小冊子に過ぎないが、日滿支蒙を中核とし泰・蘭印・佛印・英領馬來・比律賓、更に緬甸・濠洲・英印を打つて一丸とする大東亞共榮圈の確立と其の必然性を論じて、大東亞戰爭勃發直前の讀書界にかなりの賣行を示し、本屋からの要請によつて改訂版を近々出す豫定であつたとの事である。

其他、書評、紹介から佛蘭西の時局觀、更には鄕土史など多方面に涉る小論文が頗る多い。又大政翼贊會に關係した最近では日本の現下の經濟問題にも屢々筆を及した。誠に多方面であつて、學者として大成させたかつた自分にとつては氣の多いと云ふ事が殘念至極であつた。

下田君の政治的活躍は昭和十七年一月神奈川縣翼贊會組織部長就任に初る。尤もその前より縣下各地を遊說し、戰時下生活の覺悟について縣民を啓蒙する處多かつたが、組織部長になるや、擧げて縣の戰時體制確立に努力し、席の溫まる閑暇もなかつた由である。政治部面の下田君を語る資格は自分にはないが、在職中起つた總選擧には推薦候補のため自ら陣頭指揮し、異常の好成績を收めた。十八年一月翼贊會改組と前後して辭職し、再び學究生活に還つたが、なすべき仕事は山積して下田君を待つてゐた。計畫してその中途なるものでさへ南洋經濟論の增訂、高橋敎授の指導下に我國所在の十六・七世紀西洋古版經濟書の調査研究、飜譯して中絕せるものにセエ及びゴンナールがあつた。

然し他方、政治方面を全く斷念した譯では決してない。自分との最後の別れの言葉の中にも云はれてゐたし、御遺族の話によれば次の總選擧にはと云ふ氣組も充分覗はれたそうである。大衆を相手の演說も手に入つて、嘗ての如き早口でなく、落着いて諄々と說くあたり、聞く者をして感動せしめたと云はれ、葬式當日高橋敎授より伺つた話ではつい先頃も衞戍病院で講演し、慰問演藝に食傷した傷病將士に新な感激をあたへたと云はれる。又支那へと云ふ話もあつた由で、自分としては寧ろかうした政治方面に今後の下田君の道があつたのではないかとさへ思へる。

いづれにせよ重大時局下に覇氣ある好壯年を失つたのはかへすがへすも殘念である。

下田君は明朗快活な性格の所有者であつたに拘らず、案外敵が多かつた。彼の正義觀にちよつとでも觸れたら最後敢然と相手に打向つて行く。相手の强弱を問題としない逞しさを持つてゐた。自分も時々喧嘩をした。そして味方となる時は實に頼母しき友であつたが、反對に彼を敵に廻すと實にいま〳〵しい程速射的な執拗な攻擊をうける。そこに下田君の良い處もあるが、誤解も多く生れた事と思ふ。げれども亦それが落著は案外さつぱりとしたもので、其の政治的手腕のなみ〳〵ならぬは到底自分らの比べ得る處ではなかつた。下田君の通るところ、色々な問題が起つては消え起つては消えた。下田君の文章も派手だが、人生行路もそうした意味で中々派手であつた。下田君と多

醫科教授下田博君を悼む

少の交渉を持つ人々はとく思ひあたる事が多いであらうと思ふ。

下田君を急に失つた事は自分らの仲間に寂莫をあたへた事はどうしても否めない。小さな仲間でなく、慶應義塾としても或意味の名物男であつたし、故郷の國府津の町でも將來を期待されて惜まれた人であつた。更に廣くは日本の佛蘭西經濟史の研究面から下田博の看板が永久に消去つたのに寂しさを感ずるのは、獨りわが慶應義塾經濟史學會の人々のみではなからう。謹んで冥福を祈り筆を置く。

前號（第三十七卷十月號）目次

農業經營に於ける家族勞働と雇傭勞働……小池基之

流動性選擇説と信用需要供給説……千種義人

田後の海割制と謂はゆる漁村共同體……羽原又吉

古版經濟書解題……高橋誠一郎

一千八百四十年版ウィリアム・アトキンソン著『經濟原理』

購讀料

一部　金五拾錢　郵稅金貳錢

半ヶ年分　金貳圓九拾錢　郵稅金拾貳錢

一ヶ年分　金五圓四拾錢　郵稅金貳拾四錢

編輯及び事務に關する一切の用件は發行所へ

營業に關する用件は發賣所へ

原稿締切期日は發行前月十日

昭和十八年十月二十五日印刷納本

昭和十八年十一月一日發行

毎月一回一日發行

三田學會雜誌

禁轉載

第三十七卷第十一號

編輯兼發行者　東京都芝區三田慶應義塾内　江田籏保

印刷者　東京都赤坂區新町五ノ四二　金子鐵五郎

印刷所　東京都赤坂區新町五ノ四二　金子活版所　電話三三九四

發行所　東京都芝區三田慶應義塾内　理財學會

配給元　東京都神田區淡路町二ノ九　日本出版配給株式會社

購讀申込は慶應出版社へ（東京市芝區三田二ノ一）